

原発県民投票にかかわって

小櫛和子

チェルノブイリ原発事故が起こるずっと以前から、原子力発電所は後世にツケを残すものだと感じていました。そして、もし日本で原発事故が起こったら、日本は存在できなくなるだろうと思っていました。しかし、福島原発事故が起こり、それでもまだ日本は存在し、一度停止された日本各地の原発も再稼働され始めました。

もう3年半が過ぎようとしています、平成24年3月、古長谷氏の呼びかけで三島に出かけていき、「浜岡原発再稼働の是非を問う県民投票」の話をはじめて聞きました。3.11の惨事の印象がまだ強烈な時期でした。今なら止められるかもしれない、県民投票の署名が始まるのなら絶対成功させなければならぬと思いました。

微力ではありましたが富士・富士宮の知人達に声をかけ、4月3日に地域のまちづくりセンターに集まっていただきました。その会場で富士と富士宮のそれぞれで核となる人が決まりました。県民投票をどのような方法で進めていくのか全く分からず、静岡の本部に足を運んで指示を仰いだのですが、みんな手探りだったことが後でわかりました。

富士市のメンバーは、組織もなく、中心になって動いてくれる人もなく、しかたなく私が進行役を務めました。受任者を集め、署名用紙をどのように配布し集計していくのか、よくわからない中でスタートしました。

署名用紙を配布するための会場を借り人の手配をしていたら、押印して署名用紙を作る作業から手伝わないと署名用紙の必要枚数を確保できないとわかり、有志数人で静岡のお寺まで押印作業に行きました。署名提出の日というゴールは決まっているのに、すべてが綱渡りでした。

署名の集計も、どの様にやればいいのかわからない中で、集まった署名用紙を1週間ぐらいかけて受任者ごとに仕分けし、提出日の前の日曜日、市民活動センターを朝10時から閉館5時まで借り、お手伝いの人を呼びかけて作業しました。昼食を食べる暇もなく、それでも閉館前の夕方4時半ころ、なんとか提出できる状態に仕上がりました。段ボール箱4箱、18,722（有効署名数 16,933）の署名が集まりました。選挙管理委員会は、署名のチェックに1週間ほどかかりましたが、終始好意的な対応で、その点はとてもよかったです。

7月の署名提出まで頑張れば終わると思って走り続けてきましたが、結局、終わりませんでした。その後、富士の有志で「原発県民投票を実現する会 富士」を作りましたが、東部の古長谷氏、水谷氏を中心とした「ハスヌマの会」と合流して、その火を消さずに頑張っています。県内各地には「火」を消さずに活動している団体がいくつもあります。「ネットワーク県民投票」も「原発県民投票静岡」の後継団体として、かろうじて生き残っています。

住民投票という市民（国民）の権利を持ってしても、国家の進む方向にブレーキをかけることは難しい。しかし、あきらめることなく続けなくてはならないという使命感も残っています。国民のできる一番有効な権利行使は、選挙の投票権です。投票する受け皿になる議員を探すのが大変ですが、少なくとも批判票にする為の投票を、もっともっと若い人達に訴えていかなければならないと、いま、強く感じているところです。